



第4回 全国高校生
手話パフォーマンス甲子園

手話パフォーマンス甲子園実行委員会

実績報告書

Supported by 日本 THE NIPPON
財団 FOUNDATION

目次

- ・ 開催概要..... 03
- ・ 大会スケジュール..... 04
- ・ 出場チーム紹介..... 06
- ・ 開会式..... 08
- ・ 出演者紹介..... 10
- ・ 表彰結果..... 12
- ・ 表彰内容..... 14
- ・ 大会公式テーマソング・アトラクション..... 15
- ・ チーム演技..... 16
- ・ 審査員長講評・開会あいさつ..... 23
- ・ バリアフリー対策..... 24
- ・ 公式グッズ販売..... 25
- ・ 会場の備し..... 26
- ・ 交流会..... 28
- ・ 予選審査会..... 30
- ・ 広報・誘致..... 32
- ・ 大会ダイジェスト番組..... 34
- ・ 手話パフォーマンス甲子園実行委員会..... 35



鳥取県内最大級のホールであるとりぎん文化会館 梨花ホールで開催しました

開催概要

目的

ろう者と聞こえる人が互いを理解し共生することができる社会を築く「鳥取県手話言語条例」の理念を実現すべく、全国の高校生が手話を使った様々なパフォーマンスを繰り広げる場をつくり発信することにより、多くの人に手話の魅力や手話が優れた意思及び情報伝達手段であることを実感してもらうとともに、手話とパフォーマンスを通じた交流の推進及び地域の活性化に寄与することを目的に、「全国高校生手話パフォーマンス甲子園」を“手話の聖地”鳥取県で開催する。

日時

平成29年10月1日(日) 9時15分～17時00分

会場

とりぎん文化会館(鳥取県鳥取市尚徳町101-5)

来場者

約1,800人

主催

手話パフォーマンス甲子園実行委員会

共催

鳥取県、公益社団法人鳥取県聴覚障害者協会

特別協賛

日本財団

特別協力

一般財団法人全日本ろうあ連盟

出場チーム

20チーム(21校)

※平成29年5月15日(月)から7月3日(月)まで参加チームを募集したところ、全国27都道府県から、54チーム(55校)の参加申込みがありました。8月2日(水)から3日(木)にかけて、審査員4名でビデオ視聴による予選審査会を開催し、各地方ブロックから12チーム、左で選出されたチームを除く上位7チーム及び開催地(鳥取県)1チームの計20チームを選出しました。



大会スケジュール

時刻	内容
9:15～	<p>開会式</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オープニング映像 ・主催者あいさつ ・特別協力団体あいさつ ・特別協賛団体あいさつ ・出場チーム紹介 ・優勝旗返還 ・選手宣誓 <p>審査員紹介 審査方法紹介</p>  
9:45～	<p>出場チームによるパフォーマンス(前半10チーム)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 境港総合技術高等学校(鳥取県) 2. 二俣川看護福祉高等学校(神奈川県) 3. 聖心学園中等教育学校(奈良県) 4. 桜花学園高等学校(愛知県) 5. 古川黎明高等学校(宮城県) 6. ノートルダム清心高等学校(広島県) 7. 横浜南陵高等学校(神奈川県) 8. 真和志高等学校(神縄県) 9. 中央ろう学校(東京都) 10. 京都府立豊学校(京都府)  
12:05～	<p>休憩</p>
13:15～	<p>出場チームによるパフォーマンス(後半10チーム)</p> <ol style="list-style-type: none"> 11. 奈良県立ろう学校(奈良県) 12. 大泉桜高等学校・立川ろう学校(東京都) 13. 石狩翔陽高等学校(北海道) 14. 岡崎東高等学校(愛知県) 15. 山梨県立ろう学校(山梨県) 16. 田橋浜高等学校(石川県) 17. 杏和高等学校(愛知県) 18. 三井高等学校(福岡県) 19. 鳥取城北高等学校(鳥取県) 20. 熊本豊学校(熊本県)  

時刻	内容
15:30～	<p>大会公式ソング「僕が君の耳になる」(HANDSIGN) プロモーション映像上映</p> <p>手話教室(早瀬憲太郎さん&山根千佳さん)</p> <p>「SoulImpression×SoulOBOG」によるダンスステージ</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div>
16:10～	<p>審査発表／表彰式</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鳥取県聴覚障害者協会賞 ・日本財団賞 ・全日本ろうあ連盟賞 ・審査員特別賞 ・第3位 ・準優勝 ・優勝 <p>審査員長謝辞 閉会あいさつ エンディング</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;">    </div>

■ 出場チーム紹介

01

境港総合技術高等学校

鳥取県

歌唱・ダンス

- 出場/4回目
- メンバー/13人



02

二俣川看護福祉高等学校

神奈川県

歌唱・ダンス・演劇

- 出場/2回目
- メンバー/7人



03

聖心学園中等教育学校

奈良県

ダンス・演劇

- 出場/2回目
- メンバー/6人



04

桜花学園高等学校

愛知県

演劇

- 出場/初出場
- メンバー/10人



05

古川黎明高等学校

宮城県

歌唱・ダンス・演劇

- 出場/初出場
- メンバー/4人



06

ノートルダム清心高等学校

北海道

歌唱・演劇

- 出場/初出場
- メンバー/4人



07

横浜南陵高等学校

神奈川県

演劇・影絵・器楽

- 出場/2回目
- メンバー/10人



08

真和志高等学校

沖縄県

ダンス

- 出場/4回目
- メンバー/12人



09

中央ろう学校

東京都

演劇

- 出場/2回目
- メンバー/6人



10

京都府立聾学校

京都府

演劇

- 出場/3回目
- メンバー/5人



11

奈良県立ろう学校

奈良県

演劇

- 出場/4回目
- メンバー/5人



12

大泉桜高等学校・立川ろう学校

東京都

ダンス・演劇

- 出場/4・2回目
- メンバー/11人



13

石狩翔陽高等学校

北海道

演劇

- 出場/4回目
- メンバー/5人



14

岡崎東高等学校

愛知県

ダンス・唱歌

- 出場/2回目
- メンバー/7人



15

山梨県立ろう学校

山梨県

演劇

- 出場/初出場
- メンバー/7人



16

田鶴浜高等学校

石川県

歌唱・演劇

- 出場/4回目
- メンバー/4人



17

杏和高等学校

愛知県

歌唱・ダンス・演劇

- 出場/3回目
- メンバー/9人



18

三井高等学校

福岡県

歌唱・振り

- 出場/4回目
- メンバー/8人



19

鳥取城北高等学校

鳥取県

コント

- 出場/3回目
- メンバー/11人



20

熊本舞学校

熊本県

演劇・歌唱

- 出場/3回目
- メンバー/3人



■ 開会式

● 主催者あいさつ

鳥取県知事
平井 伸治



本日は、この第4回全国高校生手話パフォーマンス甲子園に全国各地から大勢の皆様にお越しいただきました。心から歓迎申し上げます。また、本大会に選ばれた20チームの皆様、今日まで練習をよく積み重ねてこられました。その練習の成果をいかして、本日でぜひ頑張ってください。

まず申し上げたいのは、昨年、第3回全国高校生手話パフォーマンス甲子園が行われた後、大きな揺れがこの鳥取県を襲いました。鳥取県中部地震です。その後、この大会に参加された学校の方から、様々なご支援をいただきました。本当に感謝を申し上げます。

今日、皆様はこの地にお集まりになりました。実は、鳥取県は「手話の聖地」と呼ばれています。最近では、「ポケモンの聖地」でもあります。11月24日から26日まで、鳥取砂丘におきまして、ポケモンGOのイベントが開催されます。珍しいポケモンもやってきますので、皆様もぜひ、遊びにお越しください。

私たち鳥取県は、「鳥取県手話言語条例」を制定しましたが、さらに、「あいサポート運動」も実施しています。この運動は、障がい者理解と共に生きていく、そういった目標で頑張っているわけですが、今日では全国各地に広がってきていますし、また世界にも広がってきています。皆様のそれぞれの地域でも、ぜひ参加していただければ本当にありがたいと思います。そのための条例も、先日の議会で議決をいただきました。本日は、全日本ろうあ連盟 石野理事長、また日本財団 吉倉常務理事をはじめ、多くの皆様がお越しです。共に、障がい者に対する理解、行動を始める運動を展開できればと思います。

先日、上野動物園でパンダの赤ちゃんが生まれました。名前が「シャンシャン」と言います。実は、ここ鳥取市で夏に開催されるお祭りを鳥取「しゃんしゃん」祭と言います。4,000人の皆様が一斉に傘踊りのパフォーマンスをします。ですから、「シャンシャン」という名前が決まって、大変に喜んでいるところです。皆様は、これから新しい時代を創っていきます。昨年は、地震の後に皆様から大変に心温まるメッセージをいただきました。絆がしっかりと結ばれました。この会場に、聞こえる人々もまた聞こえない人々も一緒にいます。その間にある壁、これを取り払う新しい時代を高校生の皆様が創るのです。私たち、みんなで応援しています。今日は、優勝を目指して頑張ってください。私たち、応援をしていますし、「シャンシャン」も応援しています。ぜひ、パンダってください。ありがとうございました。

● 特別協力団体 あいさつ

一般財団法人
全日本ろうあ連盟 理事長
石野 富志三郎



秋晴れのもと、「第4回全国高校生手話パフォーマンス甲子園」が盛大に開催されますことに、心よりお祝い申し上げます。

ここ鳥取県が全国で初めて手話言語条例を制定してから、はや5年が経ちました。この制定は、この5年間で全国各地に大きな影響を与え、現在100を超える自治体で条例が制定されています。全国手話言語市区長会では、来週10月8日、北海道石狩市で「手話劇祭」が開催されます。この手話パフォーマンス甲子園の開催のように、手話言語の普及に伴い様々な形での取り組みが全国各地で行われるようになりました。

今年は、7月に第23回夏季デフリンピックが開催されました。13日間の熱戦を繰り広げ、11競技に参加した日本選手団は、金メダル6個を含む過去最高の27個というメダルを獲得しました。輝かしい成績を残した選手の中には、皆さんと同じ高校生もいます。

学業と並行して練習に励み、数少ない合同練習でチームワークをつくり、本番の試合で全力を出し切る。高校生のあふれるパワーがほかの大人の選手の方も引き出し、より強い「オールジャパン」で戦えたのではないかと確信しています。

今日の本選に出場する皆さんも、チーム一丸となって練習を積み重ねてきたと思います。手話はとても奥深く手話表現は無限です。その魅力ある手話を使って、皆で助け合いながら作り上げたパフォーマンスを力の限り見せてください。どんな結果になっても、皆さんの手話パフォーマンスは、観客の皆さんに感動を与え、手話そのものの関心を高めてくれるはずです。

鳥取県手話言語条例から始まった手話言語という新しい視点による新しい取り組みが広がることで、きこえない者がいつでもどこでも自由に手話を使用でき、手話で様々なことが楽しめる、豊かな社会が実現できるよう、皆さんのような若い世代からの手話による新しい発信がこれからも続くことを期待しています。

最後になりますが、本大会の主催であります手話パフォーマンス甲子園実行委員会をはじめ鳥取県、鳥取県聴覚障害者協会そして日本財団の今後益々の御発展と、出場者の皆さんの健闘を祈り、私の挨拶といたします。

●特別協賛団体 あいさつ

日本財団 常務理事
吉倉 和宏



本日は“手話の聖地”鳥取県へようこそいらっしゃいました。予選を勝ち抜き、様々なトレーニングを経てきた皆様、今日は私から2つのお願いをお伝えしたいと思います。

今、多くの皆様はこの手話パフォーマンス甲子園の本番を前に緊張しているのではないかと思います。私も高校生の時に、国民体育大会に出たことがあります。その時の緊張感と高揚感は今でも忘れられません。特に、共通の目標に向かって一緒に努力した仲間たちとの経験は、今でも自分の心の中の宝として残っています。皆様も是非、今日の大会を心に焼き付けてください。これから皆様が経験する様々な苦勞の中で、この経験は、必ず糧になると思います。そして、その拠り所として、ここが“心の聖地”鳥取県になることを期待しております。

そしてもう1つ。私も高校時代に聾の友達とコミュニケーションするため、手話を学んだことがあります。残念ながら、その友達は引越してしまい、その後は手紙でのコミュニケーションだけになってしまったので、結果として今では手話をすっかり忘れてしまいました。今日ここにいらっしゃる皆様は、予選を勝ち抜いて全国大会に出ているわけですので、この大会が終わっても、そして高校生活が終わっても、引き続き手話を忘れずに、聾の友達も含めた仲間たちとコミュニケーションを末永く続けて欲しい、と考えております。

それによって、皆様の周りの方々が手話に興味を持ち、手話に親しみを持つ人が周囲に並び、全国の様々なところで手話が普通の言葉になることを期待して、私たち日本財団はこの大会を支援しています。

今日の経験を心に焼き付け、今後の更なる皆様の活躍を期待いたしまして、私のご挨拶とさせていただきます。今日は皆様、頑張ってください。応援しております。

●選手宣誓

田鶴浜高等学校
(石川県)

石黒 亜友美



宣誓。

私たちは、今、第4回全国高校生手話パフォーマンス甲子園の栄えあるこの舞台に日本全国から集まってくることができました。この舞台に立っていることに喜びを感じるとともに、ここまで導いてくださった、全ての方々に心から感謝いたします。

私たちの社会では、年齢や性別はもちろんコミュニケーション手段の異なる人々が共に暮らしています。

私たちは、今日を、この地を、新たなスタートにして、お互いに関わり合える社会を目指し、お互いの言葉を大切に、精一杯パフォーマンスする事を誓います。

平成29年10月1日

選手代表 石川県立田鶴浜高等学校 石黒 亜友美

●優勝旗返還

熊本聾学校 中村 美南海

昨年の第3回大会優勝チーム 熊本聾学校の中村美南海さんから、平井伸治鳥取県知事へ優勝旗が返還されました。平井知事からは、代わりに優勝盾が中村さんに贈られました。



優勝旗の返還



優勝盾の授与



昨年の
第3回大会の様子

出演者紹介

演技司会者



早瀬 憲太郎さん

ろう者として、学習塾「早瀬道場」を設立し、ろう児の国語指導等を行っている。NHK「みんなの手話」に講師として出演してきた。また、アフリンピック2017の自転車競技の日本代表として出場した。



三城 千咲さん

レースクイーン・オブ・ザ・イヤ-15-16受賞。手話パフォーマーとして、パタリンアート公式ソング「未完成キャンパス」のMVに出演。「HANDSIGN with三城千咲」としてアフリンピック2017応援テーマソング「ヒーロー」を担当した。

総合司会者



近藤 泰郎さん

NHK鳥取放送局アナウンサー。2000年NHKに入局。最初に赴任(2000年～2004年)したのが鳥取放送局。2016年にNHK鳥取放送局に赴任。

スペシャルサポーター



山根 千佳さん

鳥取県出身。2012年、第37回ホリプロタレントスカウトキャラバンファイナリスト。タレントとして、NHK「ガッテン」(準レギュラー)や趣味の大相撲の豊富な知識をいかして、大相撲関連の番組など多数出演している。

ゲストパフォーマー

SoulImpression×SoulOBOG

聴覚障がい者のための高等教育機関として知られる国立大学法人筑波技術大学産業技術学部のろう学生だけのダンスサークル。本番は、卒業生(OBOG)との混合チームでダンスパフォーマンスを披露した。



● 審査員



しょうせき たかし
庄崎 隆志さん
演出家・俳優

ろう者



いまなか あやこ
今村 彩子さん
映画監督

ろう者



こいけ えいじ
小中 栄一さん
一般財団法人
全日本ろうあ連盟 副理事長

ろう者



なかの さよこ
中野 佐世子さん
手話ニュースキャスター・
手話通訳士

聞こえる人



たかはし ちかこ
高橋 千枝さん
鳥取大学地域学部准教授・
臨床発達心理士

聞こえる人



ふるかわ すずこ
古川 鈴子さん
手話通訳士・社会福祉士

聞こえる人



表彰結果

表彰	発表順	チーム名(都道府県)	審査得点
優勝	11	<p>奈良県立ろう学校(奈良県) ※3年ぶり2回目の優勝!</p> 	268
準優勝	17	<p>杏和高等学校(愛知県)</p> 	259
第3位	12	<p>大泉桜高等学校・立川ろう学校(東京都)</p> 	256

表彰	発表順	チーム名(都道府県)
審査員特別賞	8	<p>真和志高等学校(沖縄県)</p> 
全日本ろうあ連盟賞	20	<p>熊本聾学校(熊本県)</p> 
日本財団賞	19	<p>鳥取城北高等学校(鳥取県)</p> 
高知県聴覚障害者協会賞	16	<p>田鶴浜高等学校(石川県)</p> 

表彰内容

賞状



優勝、準優勝、第3位、審査員特別賞、全日本ろうあ選取賞、日本財団賞、鳥取県障害障害者協会賞

優勝旗



盾



メダル



優勝、準優勝、第3位の選手全員に授与(素材は鳥取沙丘の砂)

副賞

優勝チーム



「東京ディズニーリゾートギフトパスポート(選手全員に各2枚)及び15万円分の旅行券」

準優勝チーム



「鳥取県の特産品の詰め合わせ 5万円相当」

第3位チーム



「鳥取県の特産品の詰め合わせ 3万円相当」

審査員特別賞



「鳥取県の特産品の詰め合わせ 1.5万円相当」

全日本ろうあ選取賞、日本財団賞、鳥取県障害障害者協会賞にも、それぞれ受賞チームへ副賞が贈られました。

梨華賞



前頁の表彰チームを除く、本大会出場チームに梨華賞を授与しました。

大会公式テーマソング

第4回全国高校生手話パフォーマンス甲子園 公式テーマソング



聞こえない女性と聞こえる男性の恋愛の実話を基にしたラブソング。本大会では、プロモーション映像を上映しました。



第4回全国高校生手話パフォーマンス甲子園
公式テーマソング

HANDSIGN 「僕が君の耳になる」

作詞：HANDSIGN 作曲、編曲：中村泰輔

アトラクション

手話教室



手話教室

(早瀬憲太郎さん&山根千佳さん)

演技司会の早瀬憲太郎さんを講師に、スペシャルサポーターの山根千佳さんが生徒役で、鳥取県の名所・名産などを題材に、手話表現を学びました。

ゲストパフォーマンス



SoulImpression×SoulOBOG

国立大学法人筑波技術大学産業技術学部のダンスサークル「SoulImpression×SoulOBOG」による、リズムカルでキラのあるダンスパフォーマンスが披露されました。

■ チーム演技①

01

境港総合技術高等学校 (鳥取県)

歌謡・ダンス

4回目



02

二俣川看護福祉高等学校 (神奈川県)

歌謡・ダンス・演劇

2回目



03

聖心学園中等教育学校 (奈良県)

ダンス・演劇

2回目



■ チーム演技②

04

桜花学園高等学校 (愛知県)

演劇

初出場



05

古川黎明高等学校 (宮城県)

歌唱・ダンス・演劇

初出場



06

ノートルダム清心高等学校 (広島県)

歌唱・演劇

初出場



■ チーム演技③

07 横浜南陵高等学校 (神奈川県)

演劇・影絵・劇り

2日目



08 真和志高等学校 (沖縄県)

ダンス

4日目



09 中央ろう学校 (東京都)

演劇

2日目



■ チーム演技④

10

京都府立聾学校 (京都府)

演劇

3回日



11

奈良県立ろう学校 (奈良県)

演劇

4回日



12

大泉桜高等学校・立川ろう学校 (東京都)

ダンス・演劇

4回日



■ チーム演技⑤

13 石狩翔陽高等学校 (北海道)

演劇

4回目



14 岡崎東高等学校 (愛知県)

ダンス・短歌

2回目



15 山梨県立ろう学校 (山梨県)

演劇

初出場



■ チーム演技⑥

16 田鶴浜高等学校 (石川県)

歌唱・演劇

4回日



17 杏和高等学校 (愛知県)

歌唱・ダンス・演劇

3回日



18 三井高等学校 (福岡県)

歌唱・振り

4回日



■ チーム演技⑦

19

鳥取城北高等学校 (鳥取県)

コント

3回



20

熊本聾学校 (熊本県)

演劇・花菱

3回



■ 審査員長講評

審査員長
庄崎 隆志

受賞されたチームの皆様、おめでとうございます。そして、受賞されたチームの関係者の皆様もおめでとうございます。また、審査員の皆様、お疲れ様でした。

それでは、チームへの受賞理由を発表させていただきます。

審査員6人で集まりまして、協議しました。短い時間でいろいろと意見もあって、なかなか大変でしたが、最終的に審査員の全員一致で、今回の受賞チームを決定させて頂きました。平井鳥取県知事からもお話がありましたように、手話パフォーマンス甲子園は、「聞こえない」ということと「聞こえる」ということの障がいの壁を乗り越えて、観る人の心を動かす力を持っている舞台だと思っていますので、そういったことが伝わってくるものがあるかどうかということを中心に審査させて頂きました。簡単に講評を述べたいと思います。

まず、優勝の奈良県立ろう学校につきましては、独特なユーモアのあるテキストを確かな技術によって、安定感のある表現としていたこと。また「いのちのつながり」をテーマにして5人の役者一人ひとりが織り成す手話と身体表現が、まるでパッチワークのようにストーリーを創りあげられていく様子がよく描かれていたところが評価されました。私たちと魚というキャラクターの愛らしさあふれる演技は将来性を感じさせ支持を得ました。

準優勝の杏和高等学校は、ミシカ伝説を取り上げられ、力強い作品にまとめあげられたことと明快なダンスパフォーマンスが心地よいこと。また、表現したいものを素直に、思い切りよく演じた点が好ましかった、という評価でした。

第三位の立川ろう学校と大泉桜高等学校ですが、「リコの夢」のストーリーは思い描いたものをかたちのあるものに創り上げてゆく力を強く感じました。今後、よりよい方向に伸びてゆく可能性を秘めている、という評価でした。

審査員特別賞の真和志高等学校につきましては、チームワークがありました。「燃えよ、琉球」のストーリーの構成力や琉球の文化が、社会へはつきりアピールされていて、観る人に感動を与えました。空手やエイサーや手話歌は踊ることの楽しさに満ちたパワフルな表現で、観客に大いにアピール出来たというのが受賞理由です。

私は第一回から今回までこの手話パフォーマンス甲子園には関わらせて頂いていますが、年々より幅広いジャンルになり、それぞれの高校生の皆さんが熱い思いを表現するため、本番まで積み上げてきた皆さんの努力や真剣さにも感動しております。

今回残念ながら受賞を逃されたチームも、今回このステージに立たれて何か次にチャレンジできると思ったことを見つけてください。昨年も同じ事を申し上げたかも知れませんが、会場にお越し頂いた皆様も、この甲子園をきっかけに、それぞれの地域の人たちに手話の魅力を伝え、さらには、手話は言語のひとつであるというアピールもやっていただければと思います。次回を目指してまた精古したり、工夫したりしてより良いパフォーマンスを持って来て頂きたいと思っております。きっと花開く時もあるでしょう。本日はありがとうございました。

■ 閉会あいさつ

公益社団法人鳥取県聴覚障害者協会理事長
下垣 彰則

第4回全国高校生手話パフォーマンス甲子園では、来賓の皆様をはじめ、審査員の皆様、ご来場の皆様、そして出演された高校生の皆様、本当にお疲れ様でした。奈良県立ろう学校の皆様、優勝おめでとうございます。第2位の杏和高等学校、第3位の大泉桜高等学校・立川ろう学校合同チーム、そして審査員特別賞を受賞された真和志高等学校の皆さん、おめでとうございます。会場の皆さん、第4回全国高校生手話パフォーマンス甲子園、いかがでしたでしょうか？

本日出場の20チームの皆さんは、本当に一生懸命に演技とパフォーマンスを披露してくれました。このパフォーマンスを観て、私は大いに感動しました。この全国高校生手話パフォーマンス甲子園は、若い人たちがいろいろな人たちに手話言語の魅力、手話言語の素晴らしさを伝えてくれます。来年も開催予定ですので、また鳥取県で皆さんとお会いできるのを楽しみにしています。

最後になりましたが、ご来場の皆さん、全日本ろうあ連盟様、日本財団様、そしてスタッフ及びボランティアの皆さん、本当にありがとうございました。以上をもちまして、第4回全国高校生手話パフォーマンス甲子園を閉会といたします。来年もぜひお会いしましょう。ありがとうございました。



審査員長講評 (庄崎 隆志 審査員長)



閉会あいさつ
(公益社団法人鳥取県聴覚障害者協会 下垣 彰則 理事長)

■ バリアフリー対策

障がいのあるなしにかかわらず、誰もが楽しめる大会をコンセプトに、様々なバリアフリー対策を行いました。

● 総合案内



総合案内には、手話通訳者を常駐配置。また、総合案内だけでなく会場内にも手話でコミュニケーションがとれるスタッフを配置し、聴覚障がい者への配慮を行いました。

● 無料シャトルバス



JR鳥取駅と会場間を結ぶシャトルバス(車イス乗車可)を運行しました。

● 情報保障用端末の貸し出し

要約筆記の内容を表示するタブレット端末(限定10台)の貸し出しを行い、ステージ上の要約筆記をお手元でご覧いただきました。

● 音声ガイド(視覚障がい者向け)

ステージの様子を実況しながら伝える「音声ガイド」を用意。視覚障がいの方に、音声によりパフォーマンスをお楽しみいただきました。

● ヒアリングループ(磁気ループ)

ホール内にヒアリングループ(磁気ループ)が設置されていることを案内するとともに、必要に応じて補聴器の貸し出しを行いました。

● LEDスクリーン



ステージの様子について情報保障を確保するため、広い会場のどの席からも見やすくなるよう手話通訳・ライブ映像・要約筆記の3つの要素を1つの画面で表示できる大型のLEDスクリーンをステージに配置しました。

● インターネット動画配信



会場へ来ることのできない方も大会を楽しむことができるよう、インターネットでライブ配信(中継)を行いました。

● ハートフル席(スペース)

階段の昇り降りがなく入場でき、ステージが見やすい1階席前方に約80席分のハートフル席(スペース)を設置し、障がいのある方、車イスを利用される方、歩行が不安な方、妊婦の方などにご利用いただきました。

● 託児・救護室の配置

簡易ベット付の救護室には、看護師を配置。また、専門の託児スタッフのいる託児室を設置しました。

● SPコード

チラシなどの配布物について、視覚障がい者向けに音声読み取りができる「SPコード」を添付しました。

公式グッズ販売

大会の記念に公式グッズ(大会当日限定)を製作・販売し、多くの方にお買い物を楽しんでいただきました。

(制作・販売は、障がい福祉サービス事業所等が行いました。)



マフラークオル(各600円)



缶バッジ(各200円)



ピンバッジ(大会ロゴ等)(各500円)



ストラップ(各300円)



Tシャツ(1,000円)



ポロシャツ(各2,000円)



ミニハンカチ(200円)



マグネット(鳥取砂丘の砂製)(各400円)



フォトスタンド(鳥取砂丘の砂製)(各500円)



トートバッグ(1,000円)



下敷(150円)



定規(200円)



ボールペン(黒・赤)・
シャープペンの3本セット(300円)

■ 会場の催し

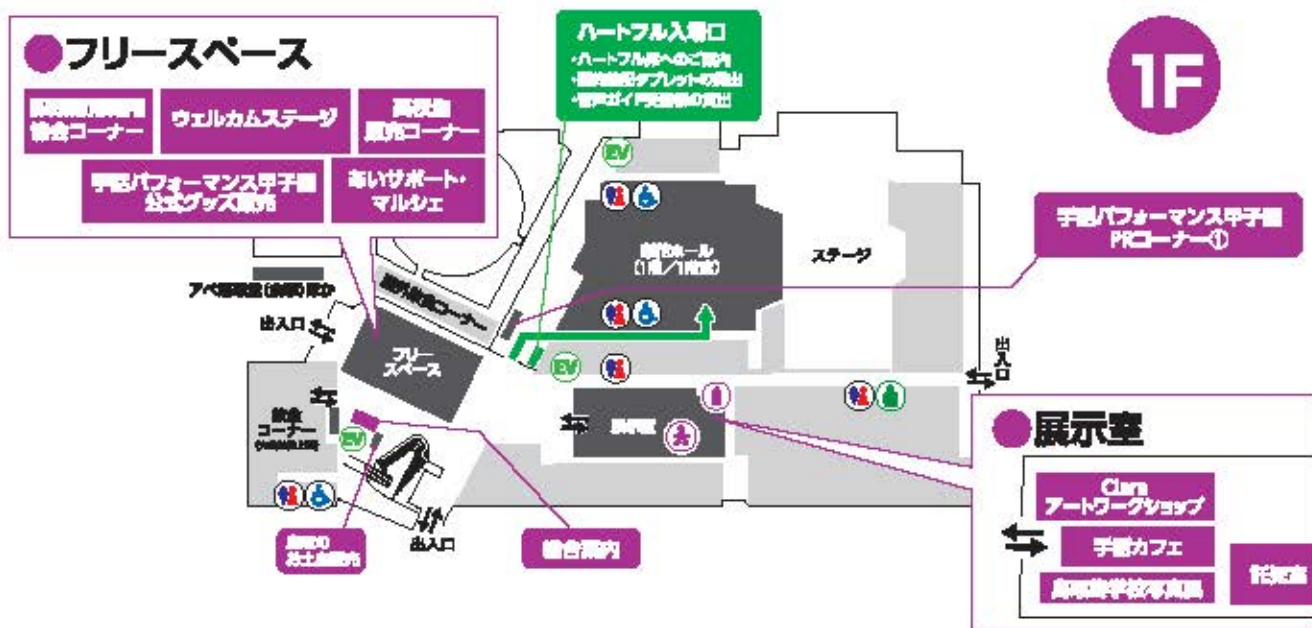
1F 鳥取県聴覚障害者協会コーナー

イベントの共催者でもある(公社)鳥取県聴覚障害者協会によるオリジナルグッズ等の販売コーナーを設けました。



1F 高校生販売コーナー

地元高校生(鳥取湖陵高等学校・境港総合技術高等学校)による物品販売コーナーを設置しました。



1F 協賛企業PRコーナー

大会に多大な協賛や協力をいただいた(株)明石スクールユニフォームカンパニー様のPRブースを設置しました。



1F 手話カフェ

米子市にある手話カフェsign協力で手話カフェを開催し、無料ドリンクを提供しました。(手話や筆談などで注文)



1F Clara アートワークショップ

鳥取市出身のイラストレーターClaraさんによるワークショップを開催しました。



1F 鳥取聾学校写真展

鳥取聾学校が撮影した写真20点を展示しました。

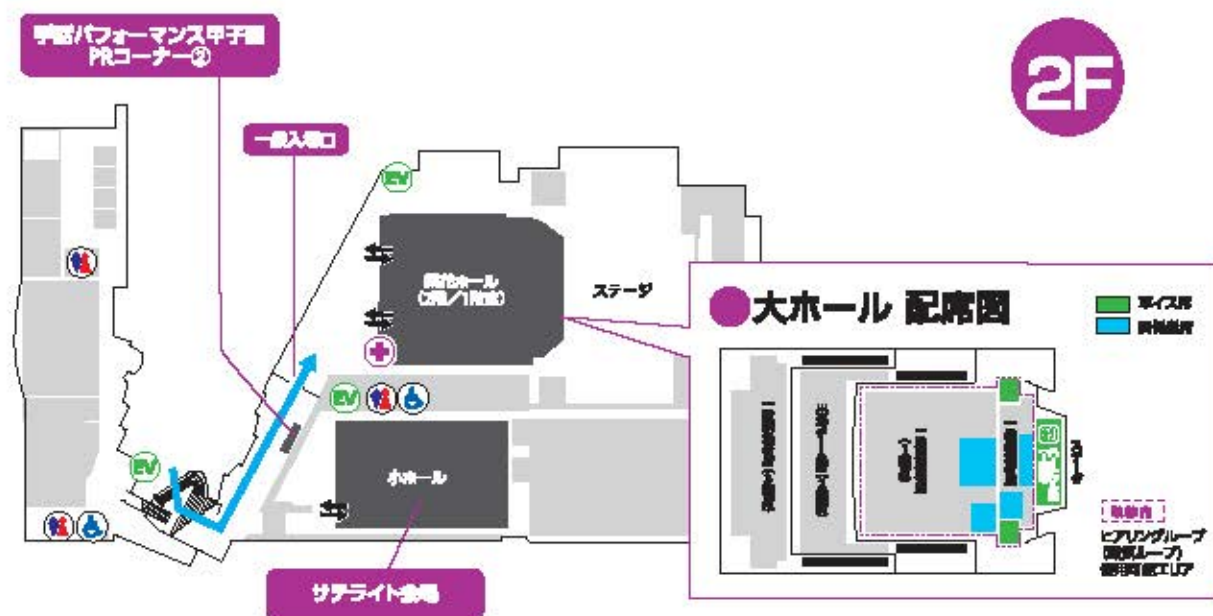
1F あいサポート・マルシェ

障がい福祉サービス事業所の店舗が出店し、特産品や軽食・スイーツ等の飲食物・オリジナル製品等の販売を行いました。



1F 手話パフォーマンス甲子園PRコーナー

第4回大会のプロモーション映像の上映及び、第1回大会からの襷子をパネル展示しました。



2F

1F ウェルカムステージ

鳥取市の郷土芸能「しゃんしゃん傘踊り」で来場者をおもてなしました。



2F サテライト会場



臨場感あふれる映像で、ステージの様態を上映しました。

PR おもてなしブース

県外からの来場客の案内所として、「JR鳥取駅に「おもてなしブース」を設置し、大会の紹介や鳥取県の観光PRを行いました。

交流会

日時

平成29年9月30日(土)18時～20時

会場

ホテルニューオータニ鳥取 鶴の間
(鳥取県鳥取市今町2-153)

出席者

- 約250人
- ・手話パフォーマンス甲子園出演者
(出場チーム、審査員、司会等)
 - ・来賓
(国会議員、全日本ろうあ連盟、日本財団、県議会議員等)
 - ・主催、共催者
(実行委員会委員、鳥取県、鳥取県聴覚障害者協会)

主催

手話パフォーマンス甲子園実行委員会

形式

立食ビュッフェ方式

次第

- ・主催者あいさつ
- ・来賓あいさつ
- ・乾杯(鳥取県座二十世紀楽サイダー)
- ・マクロ解体ショー
- ・出場チーム抱負
- ・司会者からのエール(早瀬憲太郎さん、三城千咲さん)
- ・アトラクション「大阪パントマイムグループ」パフォーマンス
- ・審査員長からのエール(庄崎隆志さん)



主催者あいさつ (平井 伸治 鳥取県知事)



来賓あいさつ (舞立 昇治 参議院議員)



乾杯のあいさつ (稲田 寿久 鳥取県議会議長)



交流会の様子

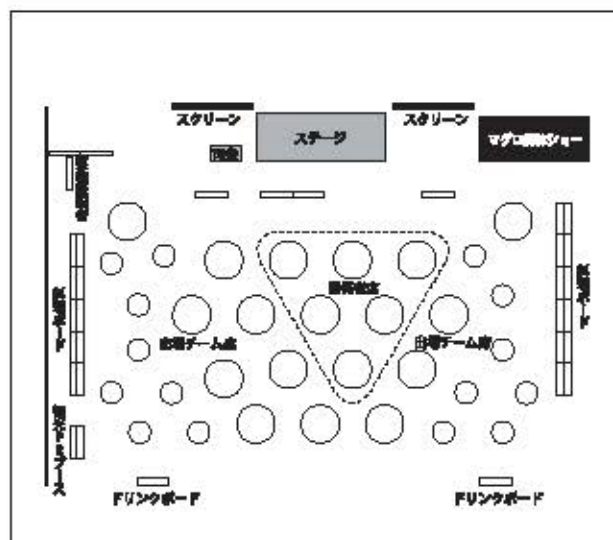
●アトラクション

「大阪パントマイムグループ」 パフォーマンス

手話とパントマイムを組み合わせたパフォーマンス集団で、日本だけでなく、世界各国でこれまで500回以上の公演を実施。今回は、芳本光司さんと田中真吾さんにお越しいただき、会場にたくさんの笑いを起こしていただきました。



●配席図



マクロ解体ショーの様子(すなば珈琲提供)



各出場チームが抱負を発表しました



演技司会者(早瀬さん・三城さん)から選手へエールが贈られました



庄崎審査員長から選手へエールが贈られました

予選審査会

日時

平成29年8月2日(水)～3日(木)

会場

鳥取県庁

審査員(4名)

- ・審査員長 庄崎 隆志さん(ろう者)
- ・小中 栄一さん(ろう者)
- ・門 秀彦さん(聞こえる人)
- ・高橋 千枝さん(聞こえる人)



庄崎 隆志さん



小中 栄一さん



門 秀彦さん



高橋 千枝さん

審査方法

各チームから提出を受けたパフォーマンス映像(3分以内)について、審査員4名により審査を行い、本大会に出場する20チームを選出しました。

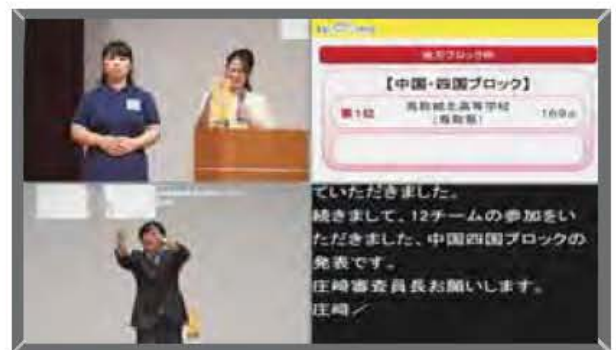


審査結果は全国へ配信

8月3日(木)に、結果発表会及び本大会発表順等の抽選(公開)を行い、その様子を全国に向けてインターネットにてライブ配信しました。



結果発表会の様子



ライブ配信映像の様子

● 予選参加チーム(本大会出場チーム除く。)

第4回全国高校生手話パフォーマンス甲子園に向けて、27都道府県から、54チーム(55校)の参加申込みがありました。※以下には、本大会出場チームを除く33チーム(34校)を掲載しています。

ブロック名	高校名
関東 ブロック	<ul style="list-style-type: none"> ● 大川学園高等学校(埼玉県) ● 豊南高等学校(東京都) ● 潤徳女子高等学校(東京都) ● 野津田高等学校(東京都) ● 高浜高等学校(神奈川県) ● 鹿島学園高等学校 平塚キャンパス(神奈川県)
中部 ブロック	<ul style="list-style-type: none"> ● 啓新高等学校(福井県) ● 身延山高等学校(山梨県) ● 熱海高等学校(静岡県) ● 掛川工業高等学校(静岡県) ● 安城生活福祉高等専修学校(愛知県) ● 高浜高等学校(愛知県)
近畿 ブロック	<ul style="list-style-type: none"> ● 八幡高等学校(滋賀県) ● 京都八幡高等学校 南キャンパス(京都府) ● クラーク記念国際高等学校 大阪梅田キャンパス(大阪府) ● 昇陽高等学校(大阪府) ● 松原高等学校(大阪府) ● いぶき明生支援学校(兵庫県) ● 鳴尾高等学校(兵庫県)
中国・四国 ブロック	<ul style="list-style-type: none"> ● 青翔開智高等学校(鳥取県) ● 米子高等学校(鳥取県) ● 岩美高等学校(鳥取県) ● 萩高等学校(山口県) ● 高松南高等学校(香川県) ● 鳴門高等学校(徳島県) ● 聖カタリナ学園高等学校(愛媛県) ● 新田青雲中等教育学校(愛媛県) ● 宇和高等学校(愛媛県)
九州・沖縄 ブロック	<ul style="list-style-type: none"> ● 大和青藍高等学校(福岡県) ● 嬉野高等学校(佐賀県) ● 平戸高等学校(長崎県) ● 大分東明高等学校(大分県) ● 佐伯豊南高等学校(大分県) ● 陽明高等学校(沖縄県)

■ 広報・誘致

● 広告等

- ・日本海新聞 記事体広告(4回)
- ・日本海新聞 うさぎの耳 1ページ(1回)
- ・日本海テレビ 大会PR番組 2分(2回)
- ・日本海テレビ 大会PR番組告知テレビCM 15秒(20回)
- ・日本海テレビ 開催告知テレビCM 15秒(30回)
- ・日本海テレビ 情報番組「スノビス・カフェ」にて告知
- ・FM山陰 開催告知ラジオCM 20秒(5回)



記事体広告



うさぎの耳 1ページ



24時間テレビ



テレビCM

● チラシ等

- ・A4版チラシ(出場チーム募集篇・出場チーム決定前篇・出場チーム決定後篇)
- ・B1版/B2版/A1版ポスター ・のぼり(開催篇・大会紹介篇) ・卓上ののぼり(開催篇・大会紹介篇)
- ・横断幕 ・懸垂幕 ・うちわ ・クリアホルダー ・手提げバッグ



出場チーム募集篇



大会開催篇①(日程紹介等)



大会開催篇②(出場チーム決定)



ポスター



うちわ



手提げバッグ



クリアホルダー



大会ののぼり①
(卓上ののぼりも制作)



大会ののぼり②
(卓上ののぼりも制作)

●YouTube動画

- ・大会プロモーション映像「チーム募集篇」
- ・大会プロモーション映像「本大会出場チーム決定篇」
- ・大会プロモーション映像「本大会案内篇」
- ・大会プロモーション映像「大会ダイジェスト篇」
- ・大会プロモーション映像「明石S.U.C.キャラクター篇」

- ・応援メッセージ 南 瑠璃さん
(手話パフォーマンスきいろぐみ代表)
- ・応援メッセージ 貴田 みどりさんから
- ・応援メッセージ 三城 千咲さん
- ・応援メッセージ HANDSIGN



チーム募集篇



本大会出場チーム決定篇



本大会案内篇



明石S.U.C.キャラクター篇



応援メッセージ 南 瑠璃さん



応援メッセージ 貴田 みどりさん



応援メッセージ 三城千咲さん



応援メッセージ HANDSIGN

●YouTubeでのライブ配信(手話パフォーマンス甲子園☆動画チャンネル)



8月3日(木) 予選審査会結果発表



10月1日(日) 本大会

●ホームページ・SNS



公式サイトを開設。Facebook、twitter、LINE、YouTubeを活用し、大会情報など随時発信しました。また、LINEスタンプの販売を開始しました。

●ディスプレイ広告



平成29年7月10日(月)～10月1日(日)まで、山陰主要駅(鳥取駅、倉吉駅、米子駅、松江駅、出雲市駅)でデジタルサイネージによる広告を行いました。

●第4回大会公式テーマソング

HANDSIGN「僕が君の耳になる」

大会ダイジェスト番組

番組名



内容

第4回全国高校生手話パフォーマンス甲子園のステージの様子を中心に、第4回大会唯一の合同チーム大泉桜高等学校・立川ろう学校や、鳥取県内の出場チームに事前取材を行い、大会の魅力や手話に対する思いをメッセージとして伝えました。

放送日

平成29年11月5日(日)16:30~17:30
日本海テレビ

司会

- ・TATSU (HANDSIGN)
手話を取り入れたダンスグループ「HANDSIGN」のメインヴォーカリスト。第1回大会は審査員、第2回大会はゲストパフォーマーとして登場し、大会への縁も深い。
- ・近藤あずみ(日本海テレビアナウンサー)

レポーター

地元高校生が応援サポーターとして大会を同じ世代の高校生からのメッセージを視聴者へ伝えました。



- ・朝倉帆乃花・瀬尾優太・武部葉南子

告知(ダイジェスト版)放送

平成29年10月23日(月)21時54分~22時00分
平成29年10月31日(火)21分54分~22時00分
日本海テレビ



■ 手話パフォーマンス甲子園実行委員会

● 実行委員会委員

役 職	所属・役職名	氏名(敬称略)
会 長	鳥取県知事	平井 伸治
委 員	一般財団法人全日本ろうあ連盟 事務局長	久松 三二
	日本財団 理事長	尾形 武寿
	公益社団法人鳥取県聴覚障害者協会 理事長	下垣 彰則
	全国手話通訳問題研究会鳥取支部 支部長	福田 幸夫
	鳥取県商工会議所連合会 会長	藤縄 匡伸
	鳥取県教育委員会 教育長	山本 仁志
	鳥取県福祉保健部長	藤井 秀樹

【オブザーバー】内閣府、厚生労働省、文部科学省

● 監事

役 職	所属・役職名	氏名(敬称略)
監 事	鳥取県立鳥取聾学校 事務長	上杉 郁子
	鳥取県会計管理者会計局会計指導課長	田中 順一

● 企画推進会議委員

役 職	所属・役職名	氏名(敬称略)
委員長	鳥取県福祉保健部ささえあい福祉局長	宮本 則明
委 員	国立大学法人筑波技術大学 教授	大杉 豊
	一般財団法人全日本ろうあ連盟 青年部長	廣田 喜春
	公益社団法人鳥取県聴覚障害者協会 事務局次長兼福祉・労働委員会委員長	戸羽 伸一
	鳥取県手話通訳士協会	森原 早百合
	全国手話通訳問題研究会鳥取支部	国広 生久代
	鳥取県手話サークル連絡協議会	田中 優子
	社会福祉法人鳥取県社会福祉協議会 常務理事	野間田 憲昭
	鳥取県教育委員会 教育次長	寺谷 英則
	鳥取県高等学校長協会 会長	山根 孝正
	鳥取県私立中学高等学校長会 会長	佐伯 友茂
鳥取県立鳥取聾学校 校長	三王寺 孝子	

募金・協賛へのお礼

第4回全国高校生手話パフォーマンス甲子園に向けて、25企業・団体及び12名の個人の皆様から、多くの協賛金及び協賛物品のご提供をいただきました。また、本大会当日、寄付の協力をお願いした結果、総額11,441円の寄付をいただきました。皆様のご支援について、この場を借りて厚くお礼を申し上げます。誠にありがとうございました。引き続き、大会の開催に向けて、変わらぬご支援を何卒よろしくお願い申し上げます。

第4回 全国高校生 手話パフォーマンス甲子園

手話パフォーマンス甲子園実行委員会

実績報告書



- 主 催 / 手話パフォーマンス甲子園実行委員会
- 共 催 / 鳥取県、公益社団法人鳥取県聴覚障害者協会
- 特別協力 / 一般財団法人全日本ろうあ連盟
- 後 援 / 内閣府、厚生労働省、文部科学省、鳥取市、手話を広める知事の会、全国手話普及市区長会、一般社団法人全国手話普及研究協会、一般社団法人日本手話通訳士協会、全国高等学校長会、全国高等学校文化連盟、朝日新聞学生文化事業団、NHK学生文化事業団、社会福祉法人全国社会福祉協議会、全国聴覚児を持つ親の会、日本聴覚教育連盟、日本障害フォーラム、朝日新聞社、毎日新聞鳥取支局、読売新聞鳥取支局、産経新聞社、日本経済新聞社鳥取支局、新日本海新聞社、山陰中央新報社、中国新聞鳥取支局、共同通信社鳥取支局、時事通信社鳥取支局、NHK鳥取放送局、BSS山陰放送、日本海テレビ、TSK山陰中央テレビ、テレビ朝日鳥取支局、鳥取県ケーブルテレビ協議会、エフエム山陰、FM鳥取、DARAZ FM

- 協 賛 /  AKASHI S.U.C.      

- 特別協賛 / Supported by  日本 THE NIPPON 財団 FOUNDATION